# 疲れない放射線防護眼鏡

## エネアコーポレーション（福井）開発

## 医師ら向け　遮へい率も高く

眼鏡関連商品の輸出入を手掛けるエネアコーポレーション（福井市御幸3丁目、山口和弘社長）は、医療従事者向けの放射線防護用眼鏡「ドクタービュー」を開発、商品化した。放射線防護用眼鏡はアクリルレンズが主流だが、鉛の含有量が多いガラスレンズを採用したことで放射線遮へい率が高い。アクリルレンズに比べ重くなったものの、荷重を分散する構造のフレームによって長時間装着の負担を軽減する製品に仕上げた。

同社などによると、目の水晶体は電離放射線への感受性が高い。被ばくによって水晶体が混濁することがあり、白内障の手術が必要になるほど視力障害が進行することもあるという。医療従事者はコンピューター断層撮影（CT）検査や、エックス線で体を透視して治療する場合などに水晶体の被ばくが発生する。

水晶体の防護策として、鉛を含んだレンズの眼鏡が有効とされ、アクリルとガラスの2種が使われている。アクリルは軽い半面、放射線遮へい率が約60％。ガラスは遮へい率が約90％と高いが、重いため医療従事者から敬遠される傾向があった。

同社は、ガラスレンズでも長時間装着できるようフレームに着目し、ブリッヂコーポレーション（越前市）の特許を用いたフレームを採用。頬骨の上で固定する左右のサイドパッドと、テンプル（つる）の計4点で支える構造で、ずり落ちにくく長時間掛けても疲れないのが特長だ。ガラスレンズは日本レンズ工業（大阪府）の製品を使用している。

ドクタービューの放射線遮へい率は97・7％で重さ88グラム。レンズ込みで価格は5万8千円（税別）。視力矯正が必要な人向けに別売りのインナーフレームを用意している。

（吉川良治）

サイドパッドにより荷重が分散され、装着時の負担が軽減されている放射線防護用眼鏡「ドクタービュー」（右）と視力矯正用のインナーフレーム

社大賞
別賞

会社大賞で
越の前田社
の法政大・